

東京工業大学グローバルリーダー教育院を設置

－新しい博士人材を社会へ，そして世界へ－

【要点】

- グローバル社会を牽引するトップリーダーになり得る人材として，高い専門性はもとより，広範な知識と俯瞰力，豊かな教養，国際性と行動力を兼ね備えた高度な博士人材を養成。
- “道場”^(注1)をおき，さまざまな専門的知識を有する学生同士が互いに異分野を理解しつつ切磋琢磨する画期的な教育システムを構築。
- 産業界など社会が求める博士人材とのマッチングを図ることを目的に，産官学の連携強化を図り，一体となってカリキュラムを編成。

【概要】

東京工業大学は既存の研究科を横断した修士課程・博士課程一貫型の全学的教育プログラムを実施する「グローバルリーダー教育院」を4月1日に設置した。

我が国は未曾有の大災害により多角的な解決策を要する問題に直面している。このような多角的課題の解決には，自身の高い専門性を中核として，俯瞰力，国際性，創造力，行動力を身につけた，いかなる状況においてもリーダーシップを発揮することができる人材が必要であり，その養成が大学としての喫緊の任務である。

同教育院は大学院学生を対象に，東工大ならではの高度な専門性の教育体系を確保したうえで，さらに俯瞰力，国際性，行動力などを身に付けさせるための“道場”を設け，道場主の指導のもと，さまざまな専門性をもった学生たちが，グループワークやプロジェクトの実施を通じて，異分野を理解しつつ切磋琢磨する教育を実施する。同教育院には科学技術系と人文社会系の2道場を置き，学生は双方に所属する。本年度、同教育院に所属する学生は10名程度を想定しており、本年夏に実施予定の選抜を経て決定する。

さらに，社会が求めるリーダー像などのニーズを把握し，本教育院のアウトカム像とのマッチングを図るため，「東京工業大学産官学人財育成コンソーシアム」(仮称)を構築し，研究のみならず，カリキュラム編成などの教育においても産業界や官界との連携を強化していく。

●背景

社会から求められているリーダーの資質とは、他者とのコミュニケーションができること、行動力があることに加えて、直面する課題が経験したことのないものであっても、自身の知識をもとにそれを俯瞰して適切な解を導ける“知恵”を持ち合わせていることである。従来の大学院博士課程は、高度な専門教育により、特定の専門分野の深い学術的知識と高度なスキルを重視した博士人材を輩出してきたが、産業界などの社会が求める人材像とのミスマッチが指摘されている。同教育院は社会と連携しながら、成長分野を創造して世界を牽引するトップリーダーになり得る資質を身につけた人材を養成する。

●今後の展開

文部科学省が公募する「大学院リーディングプログラム」の採択を目指し、バーチャル道場システム^(注2)などのインフラ設備や、学生がこのプログラムに専念できるよう経済的支援・キャリアパス支援を充実させるとともに、科学技術系・人文社会系それぞれの道場を複数として、“道場破り”^(注3)によるより高度な切磋琢磨の機会を提供できる教育システムに展開する。

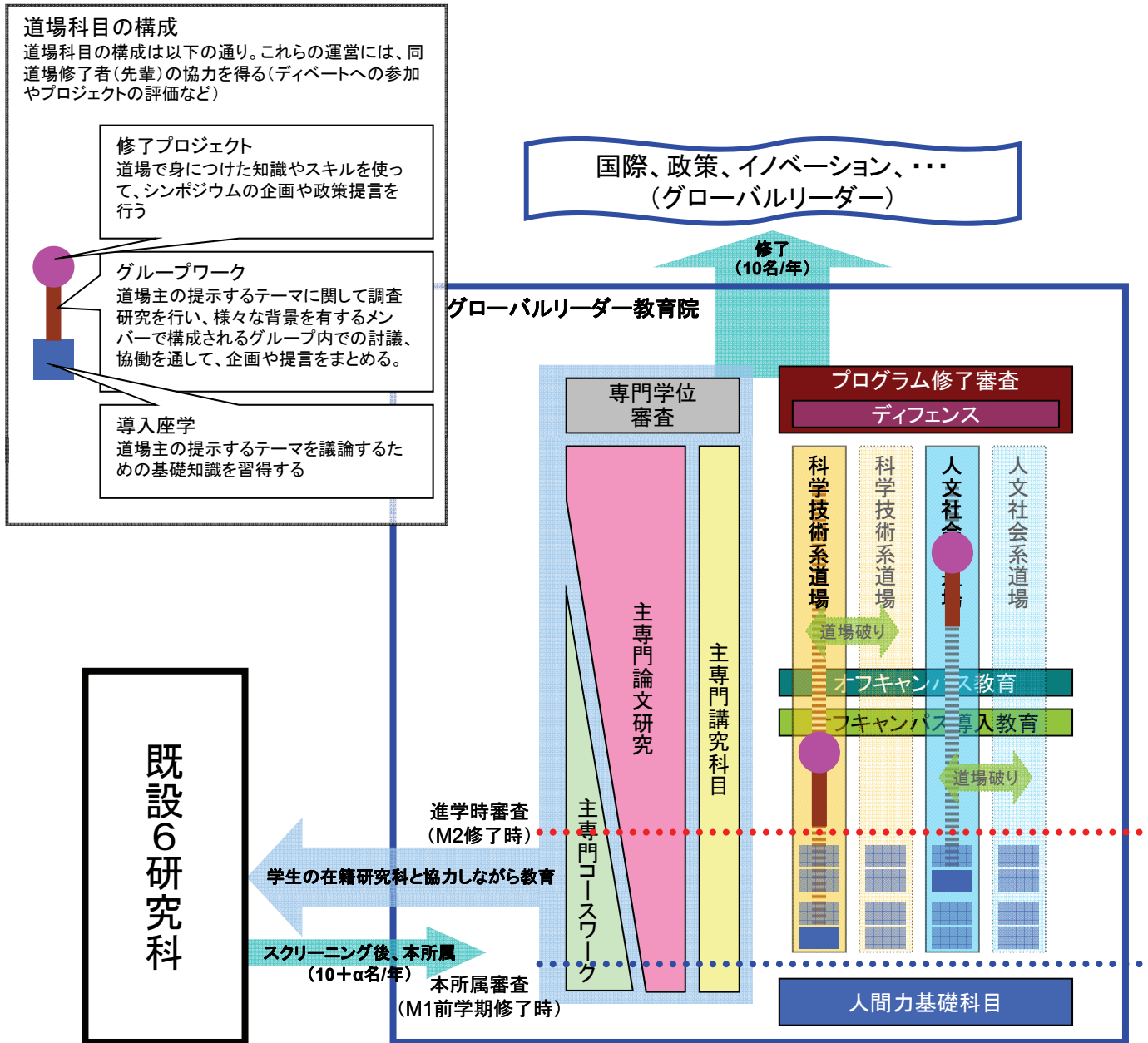
【用語説明】

- (注1) 道場：様々な専門分野を有する異分野ごとの学生同士が切磋琢磨する場。イメージとしては道場主が主宰する「ゼミ」である。
- (注2) バーチャル道場システム：大岡山・すずかけ台・田町それぞれのキャンパスにおいて、物理的に離れていてもリアリティあふれるグループワークなどが実施できるような、従来の遠隔講義をさらに進歩させたシステム。
- (注3) 道場破り：科学技術系道場及び人文社会系道場それぞれにおいて、複数の道場を設置することができた際に、ある道場に所属する学生が自主的に他の道場に討論を求めるなど、道場を越えて鍛錬し、修養すること。

【問い合わせ先】

東京工業大学 グローバルリーダー教育院 教育院長 佐藤 勲
Email: satohi@mep.titech.ac.jp, agl@jim.titech.ac.jp
TEL: 03-5734-3238 (佐藤), 03-5734-3117 (担当事務)
FAX: 03-5734-3745

東工大グローバルリーダー教育院の教育体系



高度博士教育課程
550名/年

グローバルリーダー教育課程
10名/年